




100社以上のお客様が利用する InSite を入口に ワークフロー全体の効率を高めるため CTP をコダックの Magnus 800 に入れ替えました。

Magnus 800 プレートセッターを導入し、Webによるデータ入稿からRIP、CTPまでボトルネックのないスムーズな仕事の流れを構築。ワークフロー改革のみならず「売れる印刷営業の仕組みづくり大学」にも参加し、全社を挙げて営業提案力の強化を目指す。

将来を見据えた確かな先見性で ビジネスを展開する老舗印刷会社

群馬県前橋市に本社を構える上毎印刷工業株式会社は、県下の官公庁や地元企業を中心に質の高い印刷ビジネスを展開する地域密着型の印刷会社である。40名の従業員を擁し、DTP制作から製版、印刷、後加工まで一貫した生産工程を社内に構築している。同社は、創業以来、先見性と創造性を駆使しながら、企業価値の向上に挑戦してきた。2009年に導入したKodak InSite ポータルシステムは、同社の先見性と創造性を示す好例のひとつだ。専務取締役



代表取締役 小口 有高 氏

の須江一夫氏は、導入の経緯と目的を次のように話している。

「InSiteは当社とお客様をWebでつなぐことのできるツールです。当時はまだ営業マンが何でもお客様に届けなくてはならない時代でした。しかしInSiteを利用すれば、営業マンが雑務に追われることなく、本来の営業活動に専念できると考えて、導入を決断しました」

導入して5年が経つが、今ではデータ入稿やWeb校正にInSiteを活用している顧客は100社以上に達している。InSiteはまさに同社のビジネスを変革した立役者そのものだった。



専務取締役 須江 一夫 氏

Magnus 800 に入れ替えて ボトルネックのないワークフローを構築

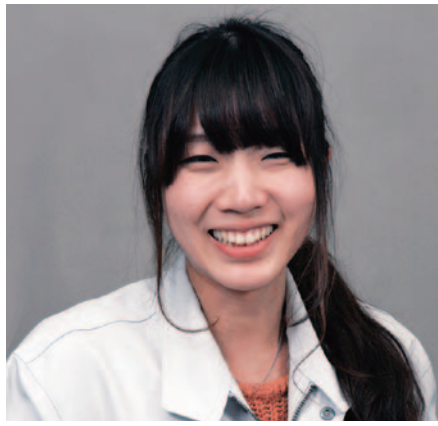
InSiteを導入した当時、同社はすでに他社製CTPを利用していただけ、製版工程には2つの異なるRIPが共存していた。このためInSiteと連携したKodak Prinergy ワークフローシステムは、印刷用PDFの書き出しとプレフライトに特化し、面付け・刷版出力は他社製RIPが担っていた。面付けの前後でワークフローが分断されるため、作業効率が悪く、RIP解釈の違いによる出力事故もあったようだ。こうした問題を解消するにはRIPとCTPがダイレクトにつながったワークフローが必要と考えて、2014年にはCTPをKodak Magnus 800に入れ替えることを決断した。その理由について代表取締役社長の小口有高氏は「InSiteの存在が無視できなかった」と話している。

「InSiteを使い慣れているお客様が100社以上いるなか、ワークフロー全体の最適化という視点で考えると、コダック以外のCTPを選ぶという選択肢はありませんでした。また当社のビジネスに必要なソリューションやサポートを真摯に提供してくれるコダックへの信頼感も大きな理由のひとつでした」

新しいワークフローでは、InSite & PrinergyとMagnus 800をダイレクトに接続してデータ



工務部制作課 課長 宮川 重信 氏



工務部制作課 樋澤 夏季 氏



Magnus 800を導入し、刷版工程を無人化

入稿からPDFの書き出し、プレフライト、面付け、刷版出力までボトルネックのないスムーズで効率的な仕事の流れを実現した。CTPの出力スピードも毎時11版から28版と3倍近くになり、作業効率の向上と相まって「出力までの時間は半分になった」と工務部制作課 課長の宮川重信氏は驚いている。

「これまでCTP側で行っていた面付け作業も、DTPの担当者が行うようになりました。ワンクッション挟むことがないので、スピードアップに大きく貢献しています」

面付け作業をDTP部門に取り込み、さらに刷版工程を無人化することで、CTPが置かれている部屋は、電気を消したままで真っ暗だ。

DTP担当者でもすぐに使える Kodak Preps 面付けソフトウェア

同社では、Prinergerと連携したKodak Preps 面付けソフトウェアを初めて導入したが、面付けの知識が少ないDTP担当者でも「決まりさえ覚えれば、操作は難しくなかった」という。Prepsは様々な面付けパターンがテンプレートとして用意されており、印刷会社固有のパターンも保存できるので、一度つくれば同じような仕事での再利用



が可能になる。同社でも導入から約半年でテンプレートの数も増えて、作業の標準化とスピードアップに貢献している。制作課の樋澤夏季氏は、自分たちが面付けまで行うメリットについて、次のように説明してくれた。

「従来はデータを初めて見る製版担当者が面付けしていたので、内容を理解するのに時間がかかっていました。今は制作担当者が面付けまで責任を持って行うので、時間短縮につながっています。また最終データを取り違えるといった単純なミスもなくなりました。校了したジョブの印刷予定を見ながら、自分たちのペースで作業を進められるのもメリットですね」

須江専務は従業員のスキルアップにもつながったと喜んでいる。

「確かに制作課の負担は増えましたが、印刷や後加工を理解してデータをつくれるようになりました。DTPだけでなく、印刷工程全体を見渡せるプロフェッショナルが育ってきていると実感しています」

価格競争からの脱却を目指し、 ソリューション提案型営業に転換

同社の先見性を示す事例はInSiteだけではない。環境対策では廃液でない無処理版を使用し、印刷現場でも完全なノンVOC化を図っている。マット/コート紙では240線での標準印刷を行い、徹底した品質管理で顧客からも高い評価を得ている。コダックのSQUAREspotイメージング技術とKodak ColorFlowカラーマネジメントツールが品質の標準化、安定化に大きく貢献していることはもちろんである。このようにハード面において充実した「道具」を取り揃えてきた

同社だが、今はお客様の立場に立った提案力の強化に取り組んでいると小口社長は次のように話している。

「お客様の現状や悩みを分析し、お客様のその先まで見通しながら、お客様本位のコンテンツを提案できる力をつけようと、全社を挙げて取り組んでいます」

コダックとソフトブレイングループが共催する「売れる印刷営業の仕組みづくり大学」にも営業マン3名が参加し、学んだことを逐一社内でも共有している。また営業だけではなく制作現場の社員も含めて、ソリューション提案型営業への転換も積極的に進めるなど、工場全体でお客様の利益向上に貢献するためのお手伝いを目指している。「コダックが私たちにタイミング良く提案してくれるように、私たちも道具をお客様にうまく利用していただくための最適な提案をしていかなくはならない」と須江専務は強調してくれた。同社のビジネス拡大を、ハードとソフトの両面でコダックが徹底サポートしている。

上野印刷工業株式会社



代表取締役：小口有高
本社所在地：
〒379-2154 群馬県前橋市天川大島町305-1
TEL：027-224-6245(代) FAX：027-224-6290
<http://jomai.jp/>

コダック 合同会社 グラフィック コミュニケーション事業本部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200
大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180
仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
<http://www.kodak.co.jp>

